

軽井沢土曜懇話会

第2回 6月14日(土) 15:00~ 講演&フルートコンサート

転換期における日本の家族

日本は今、大変な転換期を迎えている。明治以来、日本は欧米の文明を取り入れ、それを消化することに努めてきた。現在は、日本は非キリスト教国の中で、唯一、先進国に仲間入りするほど、成功を収めてきたが、これまでは、言わば「もの」のレベルでの取り入れであったが、「こころ」のレベルにまでそれが及んできて、いったいそれをどうするか、大きい課題を背負っている。

このことが、非常に端的に認められるのが、家族の問題である。日本の伝統的な考えにどこまで従うのか、欧米の考えをどこまで取り入れるのか、そのときに、その背後にある「宗教」のことをどこまで考えるのか。あるいは、欧米の考えを取り入れたつもりで、実はそれは本来の欧米の生き方とまったく異なるものになっていることもある。このような問題について、具体例をあげながら、それに即して、今後の日本の家族について、共に考えてゆきたい。

講師 河合隼雄氏

文化庁長官

略歴：昭和27年 京都大学理学部卒業
昭和40年 ユング研究所(スイス)よりユング派分析家の資格を取得
昭和50年 1月 京都大学教授
平成7年 5月 国際日本文化センター所長
平成14年 1月 文化庁長官

[主な委員等歴]

「21世紀日本の構想」懇談会座長、教育改革国民会議委員、中央教育審議会委員、
学術審議会委員、宗教法人審議会委員、文部科学省顧問

主な受賞：平成7年 4月 紫綬褒章、平成8年 3月 日本放送協会放送文化賞
平成10年 1月 朝日賞、平成12年 11月 文化功労者

主な著書：「昔話と日本人の心」(大佛次郎賞(昭和57年))、「明恵 夢を生きる」(新潮学芸賞(昭和63年))、「中空構造日本の構造」、「とりかえばや、男と女」、「声の力」、「ナバホへの旅 たましいの風景」、「出会いの不思議」、「未来への記憶」他

趣味：フルート(プロの演奏家とも共演するほどの確かな腕前)

軽井沢土曜懇話会

フルートコンサート

フルート 河合 隼雄 (文化庁長官)

ピアノ 岡田 知子 (ピアニスト)

岡田 知子

ピアニスト

東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトへ留学。声楽の伴奏、器楽とのアンサンブルを学ぶ。K・シルデ、G・バイセンボルンに師事。1976年同校を首席で卒業。1977年1月ベルリン、メンデルスゾーン・コンクール、ピアノ・トリオ部門第一位入賞。同年10月ジュネーブ国際音楽コンクール、ピアノ・トリオ部門第二位(一位空席)及びスイス特別賞受賞。1978年帰国、以降アンサンブルピアニストとして活発なコンサート活動を続けている。また来日演奏家との共演、CD録音、コンサートのプロデュース等々、多方面で活躍している。毎夏、草津夏期国際音楽祭、そしてスイスで開かれるチューリヒ・マスター・コースに専属ピアニスト、教授陣のアシスタントとして招かれている。